

医療安全管理者の活動



医療安全管理者 師長 泉 君香

インシデント（ヒヤリ・ハット）は、医療現場において日常的に起こる可能性があります。その報告は医療に係る安全の確保を目的とした改善のため、全ての病院に義務付けられています。

医療安全管理者は、レポートを読み込み経緯や要因を分析して対応策をチームで検討し改善に努めています。また、院内外のトピックスを「今月のニュース」として全職員に発信し注意喚起活動を行っています。

「チームで活かす知見と対策」をキーワードに、多職種の知恵と技術、考察を統合させ院内ラウンド（5S・KYT）、患者ラウンド

（配薬・転倒転落予防）を行い、事故を未然に防ぐ活動も行っています。

組織の中を横断的に担う役割であるため、様々な部署や職種と協力し連携していくことが求められます。セーフティマネージャーと協力し、医療安全活動の推進に取り組む風土をつくるよう努めてまいります。

予測不能な防犯や災害に対して危機意識も高まっています。近隣施設と連携し、地域に貢献できる活動を提案していきたいと考えております。

緩和ケアを通してその人らしい穏やかな療養生活を送れるように



緩和ケア委員会 4N病棟 高市 美亨

緩和ケアは、がんの患者さんだけに当てはまるものだと思いますか。

患者さんは病気自体の症状の他に、痛み・倦怠感など様々な身体的な苦痛や落ち込み悲しみなどの精神的な苦痛を経験します。

二次救急を担う当院ではがんの他に肝不全や呼吸不全、症状の回復が期待できず、悩みや苦しみを抱えている患者さんも多く来院されます。その為、原疾患の治療だけでなく、患者さんが抱える様々な苦痛の緩和が重要です。

病気を診断された時、苦しみを感じた時など身体的・精神的苦痛を和らげる為のサポートが

患者さんには必要です。このため、緩和ケアチームは医師・看護師・薬剤師・メディカルスタッフ等、多職種で構成され、患者さんが有する苦痛の緩和をサポートすることが主な活動です。

患者さんの抱える悩みや苦痛はベッドサイドにいる看護師の気付きがとても重要です。

苦しんでいる人は自分の大切な人かもしれません。苦しみを放置せず、その人らしい療養生活を送れるように、緩和ケアチームの一員として取り組んでいきます。